

立教英国学院

# 学院通信

第282号

中学部 1 年 横井 花生

「がんばってね！」

立教英国学院に入学するにあたって、たくさんの人からこの言葉をかけてもらった。まだ入学して間もないけれどこの言葉は私を勇気づけてくれる。

この「勇気」を毎日の活力にして、私は立教英国学院で将来の可能性を広げたい。家族も今までの友達もない。でも、豊かな自然に囲まれて自分の好きなことにとことん取り組める恵まれた環境がある。新しい出会いもある。

私は本が好きで、将来翻訳家になりたい。私もそうだったように、子どもたちに海外文学の面白さを伝えたい。私が訳した本を読んで本を好きになってくれる子がいたら、と思う。

でも、もしかしたらこの6年間で他に好きなことが見つかって、夢が変わるかもしれない。気が変わることはあるから十分ありえる。それでも私は好きな分野が新しく見つかったことも、立教英国学院に来たかいがあったと思うだろう。

このように何事も前向きに捉えられる人になる事も私の目標だ。家族や友達に会えないさみしさはあるけれど、皆が言ってくれた「がんばって！」の言葉を思い出しながら乗り越えていきたい。自分の将来の可能性を広げるために意味のある6年間にしたい。

## 立教英国学院に入学して



### CONTENTS (目次)

1. 立教英国学院に入学して
2. 「見えないバトン」 / 球技大会
3. OUTING / 〈コラム〉「僕は平成男児？令和男児？」
4. Cambridge 研修
5. Cambridge 研修
6. ホームステイ / Weald School 体験記
7. 〈声〉「優しい先輩」/「ミャンマーの裏側に」
8. チャプレンより 第10回

APRIL  
APRIL

SCHOOL EVENTS

4/14 入学始業礼拝

4/15 オリエンテーション・健康診断

4/16 高等部実力テスト・中学部模擬試験





# 球技大会 引っ張って いく立場

高等部2年 島津 里帆

## 見えないバトン

高等部3年 大石 桜子

「似合う？」

同学達と顔を合わせ始まった高校3年生の一学期、青から赤へと変わったネクタイの色に私達は心を躍らせていた。

昨年も迎えたはずの入学式。今年は何故だか違って見えた。それと同時に自身の入学当時を鮮明に思い出した。初めての寮生活に初めてのテーブルマナー。毎日忙しく進んでいく時にしがみつくと頭がいっぱいだった。自分がどのようなものであるのかさえ、自分の心を覗く余裕もなかった。

そうして仲間と過ごし、たどりついた今。私達は全てが最後となる最高学年になっていた。文化祭も体育祭も来年はこうしよう、次はこんなのがいいと案を出しあっていた去年。次はなく、今年で何もかもが最後。今までの高校三年生が引っぱってきてくれた学校行事から何から全て、見えないバトンはもう既に渡されていたのだ。

最後だから頑張る、ではなく、いつもの私達高校3年生の気合とプラスアルファで「ラスト」と言った言葉を背負い、学校全体を引っ張りそして支えられる学年になりたいと思った。最高学年になった今でも、こう考えると今という時に追いつくのに必死でいる自分がある。立ち止まって振り返るのではなく、今は「今」をしっかり見つめ、少しでも前に進んでみれば、きっとゴールにたどり着くだろう。そして、私達も「縁の下力持ち」と呼ばれる最高学年になれるのではないかと思う。バトンを受けとり、今、がんばろうと思った。

私は今年の球技大会でも、去年に引き続きソフトボールを選び、出場しました。

去年のチームでは、私は下の学年で練習も先輩がメインで教えて下さり、ただそれについていっただけでした。しかし、今年は高2になり、チームにも高3が1人しかいなかったため、自分たちが後輩たちを引っ張っていく立場になっていました。もともと私は積極的に声をかけられる性格ではなかったので、初めは心細く、キャプテンに全部任せたままで、何一つサポートできていませんでした。ですが、だんだん練習しているうちに、チームの雰囲気にも慣れてきて、声をかけ合ったり、アドバイスをし合ったりすることが増えていきました。そして本番当日、全体競技から始まり、私たちミントチームは、ペア競技もリレーも負けてしまいました。それもあって、普段よりも余計に緊張しました。

試合が始まり、最初の方は寒かったため、体が思うように動かず大変でした。ですが、仲間が良いボールを打ったり、良い連携をとれたりしているうちにだんだん熱くなっていき、寒さのことはすっかり忘れて夢中になっていました。誰かがミスをして「ドンマイ！」や「大丈夫！」などの明るい声かけをして、とても雰囲気が良かったため、みんなの調子も上がり、午前の試合は勝つことができました。

午後の試合でもチームで協力し、練習の成果を出しきることができました。途中、少し悪い流れになってしまいましたが、キャプテンをはじめ、みんなで励まし合えたおかげで良い流れを取り戻すことができました。結果、午後の試合も勝つことができました。

全体としてはミントチームは負けてしまいましたが、私はすごく楽しかったです。来年は最上級学年になるので、私も後輩から頼ってもらえるような先輩になれるように頑張りたいです。

APRIL  
APRIL

SCHOOL EVENTS

4/27 球技大会

4/29 新入生健康診断

4/30 午後ブレイク・バレーボール部対外試合・歯科検診1

4/30 午後ブレイク・バレーボール部対外試合・歯科検診1

# 空が見える大浴場

中学部1年 大前 友梨夏

5月17日、強風が吹く中、私はアウティングに向かうコーチに乗り込みました。今回の行き先は、前から行ってみたいと思っていたストーンヘンジと、古代ローマ人が作ったとされるローマン・バスだったので、聞いた時からとても楽しみにしていました。まず初めに行ったのは、ストーンヘンジです。駐車場からストーンヘンジまでの道を歩き、途中でピクニックをしました。風が吹いていたので少し肌寒かったのですが、空腹の中みんなで食べたサンドウィッチはとても美味しかったです。ストーンヘンジに着くと、とても巨大な石を目の前に見ました。私の身長3倍ほどもある石の上にさらに大きな石が置いてありとてもビックリしました。今から何世紀も前に、とても大きく重い石をどのような方法であの場所に運び、あのような形に並べたのかとても不思議に思いました。

次に行ったのは、ローマン・バスです。ローマン・バスでは、温泉の源水を飲めるコーナーがあったり、床が透明になっていたので流れる温水が見れたりしてとても面白かったです。特にすごいなあと思ったのは、空が見える大浴場です。今は使用できなくなっているのですが、とても広くて綺麗でした。自由時間には、ローマン・バスの近くを散歩しました。自由時間が少なかったのですが、好きなものを買えたのでとても嬉しかったです。

今回のアウティングで、私は去年よりも自分の英語力が上達したと思いました。買い物をする時や、案内を聞く時などに、自分の話す・聞く能力がとても上がったと実感しました。

これからはもっと英語を勉強して、より上手に英語を話せるになりたいです。



## 僕は平成男児？ 令和男児？

中学部3年 矢野正徒

エイプリルフルにはボクはどんなことを言って家族を騙そうかと思っていて。お弁当を買いに外に出たら、道の端っこにみんなが携帯を覗き込んで立ち止まっている姿を見た。ポケモンGOのゲームをしてレアなグッズを手に入れているのかと思っていた。そしたら「わー、令和、それとも平和」という声がそこら中から聞こえてきた。そうだった。今この時間にこれからの元号が発表されたのだった。急いで家に戻ってテレビをつけて見た。平成から令和、まだ実感がわかないけれど、これからどんどん慣れていくんだろうと思った。将来僕が大人になったら、「僕が中学の時にこの元号に変わったんだよ」と伝えられるように今の様子を覚えておこうと思った。

イギリスのお友達からは「元号って何」と言われて説明に困った。元号って日本だけだったんだと思い出した。「意味は何」とも聞かれた。そういえば外国の人からは君の名前の意味って何って聞かれることが多い。急いで令和の意味を調べたら幸運と平和が合わさったものだを知った。日本の最も古い歌集から選ばれた言葉と知って、改めて日本の歴史を思い出すきっかけとなった。日本だけしか使われていない元号。昔から残っていた本。その中に書かれている梅の花見も今でも変わっていないところ。携帯を見ていた姿をゲームしているのかと勘違いした僕、エイプリルフルにどんな風にジョークを飛ばそうかと考えていた僕。ごちゃごちゃな文化が混ざっている僕の日本の生活。でもこの伝統を大事にしている日本の国もいいなと思いながら、来週イギリスに帰国する準備をしている。Japanese Eveningでは、また違った日本を紹介できそうだった。令和の「令」の漢字を「冷」だけにはしないようにしたい。

May  
WSA

SCHOOL EVENTS

5/10 Japanese Evening

5/2 テニス部対外試合

5/12 写真同好会外出

5/1 歯科検診2

5/14, 15 新入生歯科検診

5/17 アウティング

5/18 小学生・中1ミュージカル鑑賞外出

## Cambridge 研修

英語を使う機会  
が圧倒的に増え  
ました

高等部2年 品川 夢香

私は5月25日から6月2日のハーフターム中に、ケンブリッジ大学の研修に参加し、様々な事を学びました。

一つは授業についてです。ケンブリッジでの授業は英語で週に4回ありました。最初の授業ではミュージアムについて紹介していただき午後には実際に授業で触れたミュージアムに行き北極や南極の文化について学び、翌日の授業ではミュージアムで学んできたことをもとにプレゼンテーションを作成し発表しました。最後の授業ではイギリス発祥のスコーンを食べたり、世界の祭りや文化について学びました。立教での授業とは全く異なった形式で学ぶことができ、いい経験になりました。

授業以外にも毎日ケンブリッジの街に行く機会があり、2日目にいったキングスカレッジの中にあるチャペルでの礼拝はチャペルがとても広く綺麗でパイプオルガンの大きさに圧倒され、聖歌や賛美歌を歌う合唱団であるクアイヤーの歌声も素晴らしく、立教英国学院の礼拝と全く異なっていたのが新鮮で驚きました。私はクアイヤーに入っているので声楽の勉強にもなりました。聖書朗読や説教は英語だったので苦労しましたが、自分なりに知っている単語だけで英文を理解する努力をしました。また、3日目にいったパンティングでは、ケンブリッジで有名な建物や街並みを眺めたり、船を漕いでくれたイギリス人の人と英語で沢山会話をしました。パンティング中に雨が降ってしまい寒かったですが、綺麗な景色を見ながら鴨と一緒にテム川を船で渡っていくのは日本では絶対に出来ない経験であると感じ、更に現地の人達と会話をする事で自分の英語力の低さに驚き、もっと勉強しなければならないと感じました。



その他にも6日目には三味線、生け花、茶道と日本の文化に触れられる機会がありました。生け花を選んだ私は、始める前は単純にお花を綺麗に見栄えよく花瓶に刺せばいいと思っていましたが、先生の丁寧な説明を聞くと、きちんとお花の長さや大きさで真(しん)、副(そえ)、体(たい)と名前が付けられており、長さのそれぞれ異なった三本の花を使って表現する生花正風体と自由に表現する自由花があると知り、実際に自分の作品を作りました。沢山のお花の中、私はかきつばただけを使ったシンプルな自由花の作品を作りました。先生が教えてくれた事を頭で理解していても、それを実践し作品にするのがとても難しく、先生に沢山質問しましたが、人生で初めての生け花で満足出来る作品が出来て楽しかったです。その夜にはヨーロッパで唯一の津軽三味線演奏者である一川響さんの演奏を生で聞き、また津軽三味線の歴史について教えて頂きました。一川さんの演奏はとても素晴らしく感動しもう一度聞いてみたいです。

このケンブリッジ大学研修を通して、ケンブリッジの文化や歴史を知り、たくさんの方々とお話しをすることで英語を使う機会が圧倒的に増えました。

私は中学3年間スウェーデンの現地校に通っていましたが、大学の食堂や先生方のフレンドリーな感じはイギリスもスウェーデンも同じで懐かしく感じ、スウェーデン語ではなく英語で会話をしなければならない事に不安や心配を抱いていましたが、先生や宿泊したKaetsuセンターのピーターさんがゆっくり話してくださったので、緊張を解くことが出来ました。ケンブリッジ大学で貴重な経験や新しい知識が増え、日本では絶対経験出来ないさまざまなことを学ぶ事が出来た充実した一週間で、ケンブリッジ大学はとても素晴らしい大学だと思いました。

May  
INSA

5/18 バレーボール部対外試合

5/18 Royal Grammar School 7名の生徒が来校、授業参加

5/18 IELTS 受験で37名が外出

5/25 - 6/2  
ハーフターム

ケンブリッジ研修

ホームステイ p.6

SCHOOL EVENTS

# 様々な面からケンブリッジ大学 を体験

高等部1年 足立 堅

私は、イギリスの中でも一流の大学と呼ばれるケンブリッジにとっても興味があるため、この研修に応募しました。そして、この研修で、ケンブリッジについて初めて知ったことがたくさんありました。

例えば、ケンブリッジは31のコレッジによってできていること、大学と大学院によって、イギリス人の生徒数とその他の国の生徒数の割合が異なることや、創立当初は男子のみしか入れなかったことなどです。

この研修では、それ以外にも、様々な面からケンブリッジ大学を体験することが出来ました。ケンブリッジ大学にあるたくさんのコレッジを、歩いて見て回ったりしたこともそうですが、やはり、一番ケンブリッジを体験できたのは、マリー・エドワーズコレッジに1週間滞在して、そこで学生と同じ生活が出来たことです。何ととっても、ケンブリッジの中で過ごしてその環境を味わえたことが、ここで体験した一番重要なことでした。

中でも印象的だったのは、ケム川でのパンティングです。ケンブリッジ周辺を小船でゆったりと回れたうえに、ケンブリッジの街にある様々なコレッジを川から見る事が出来ました。パンティングは初めてだったので、とてもよい経験となりました。

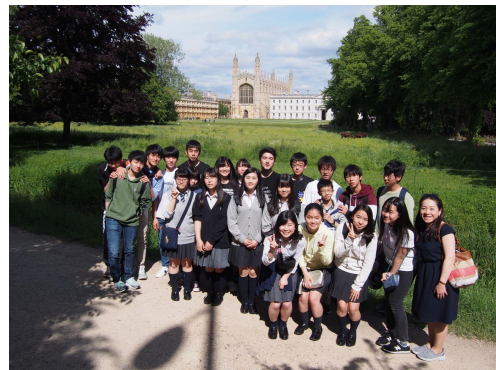
勿論、遊びだけではなく勉強にも励みました。コレッジの1部屋を使い、英語を使った授業を4日間にわたって受けることが出来ました。そこで、イギリスの食文化、1年間それぞれの季節によって行われる行事や歴史について学ぶことが出来ました。その歴史とは具体的に、スコット隊とアムンセン隊の南極点到達までのレースです。そして、その間にスコット隊に起きた悲劇やその要因について博物館に行って調べ、その後はプレゼンテーションも行いました。

もう1つは、フィッツウィリアム美術館で、ローマ帝国とイギリスとの関係について、特に皇帝ハドリアヌスについて調べ、こちらも同じくプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションを作るのには、夜の時間など出来るだけフルに使ったため、努力した甲斐のあるものとなりました。

勉強の後には息抜きのついでに街に出て、買い物をしたり、お茶をしたりしました。夕食までのこの時間は私にとってよい休憩時間となりました。授業数が少ないとはいえ、プレゼンテーションの準備をしたり日記をつけたりしていると案外時間が早く感じられます。そんな私たちにとって、街へ出かけたこともまた一つの楽しい思い出となりました。

このように、私は今回のケンブリッジ研修でさまざまな経験を得ることが出来ました。このような体験が容易に出来るのは、このイギリスという地にいるからこそで、改めてケンブリッジ大学だけでなく、この立教英国学院の良さや素晴らしさも実感することが出来ました。

夏休みは、ロイヤルグラマースクールへ短期留学にいくことが出来るため、是非その短期留学も今回の研修で得た経験を生かして、自分にとってよい経験にしたいと思います。



June  
June

SCHOOL EVENTS

6/9 Guildfordショッピング、漢字書き取りコンクール

6/25-29 期末考査

6/11 本校にて立教大学説明会

6/18 テニス部対外試合

6/4-22 Cambridge 英語検定

6/16 漢字検定

6/19 本校にてSussex大学説明会

# お父さんとのアクティビティーは、本当にこのホームステイを豊かなものにしてくれた

中学部2年 峯山 賢人

今日は待ちに待ったホームステイだ。どこに外出しようか、何をして遊ぼうか、などと想像していた。自分の英語力には自信がなかった。でも、ECの授業では先生ともなんとか通じ合っているし、大丈夫だろうと思っていた。そして、車が迎えに来るのを今か今かと待ち望んでいた。やっと迎えが到着し、テンション高めで車に乗り込んだ。すると、妙に緊張感が湧いてきた。ホストファミリーの言っている事が理解できず、どのように反応すればいいかわからなかった。この時、これからの生活が思いやられた。ちなみに、僕のホストファミリーは警察官のお父さんと、その奥さんと、三歳の娘で、とっても温かい家庭だった。

ホストファミリーの家に着くと、他人の家に泊まるのが初めての僕にとっては、とても不思議な感覚がした。そんなこんなといういろいろ困惑していたら、眠りについてしまった。

次の日からはだんだんとホストファミリーとのコミュニケーションが増えていった。特にお父さんはたくさんアクティビティーに誘ってくれて、楽しかった。夜、映画を観たり、のんびり散歩したり、海に行ったり、また映画を観たりした。お父さんとのアクティビティーは、本当にこのホームステイを豊かなものにしてくれた。海に行ったときには僕がなくし物をしてしまい、忙しいのにもかかわらず、後日一緒にわざわざ捜しに行ってくれた。

お母さんはとにかく優しく、すぐく気を配ってくれた。お腹は空いていないか、どこか行きたい場所はないか、掃除を手伝おうかなどとたくさん気を配ってくれた。こんなにしていただいて、本当にうれしかった。僕も将来このような人を目指していきたいと思った。



そして、娘のイジーちゃんとはとにかく可愛らしかった。何に関しても好奇心旺盛で、自分にもあんな時期があったのかと思うと、不思議だった。今はこんなに幼いイジーちゃんの成長した姿を見たいと思った。

今回、ホームステイしたことは本当に良かったと思う。初めてのホームステイにもかかわらず、みんな優しくしてくれた。一緒にホームステイをした子や、ホストファミリー、先生方みんなだ。そんな環境であつたからこそ、たくさん身についたものがあると思う。この良い経験を活かして、これからも努力していきたい。

## Weald School 体験記

中1・中2の英語の授業で地元の中学校を訪問しました。

今日はWeald Schoolに行きました。話す前は話しかけるのが少し怖かったけれど、Weald Schoolの人達が優しく話しかけてくれたので、話すのが楽しくなり、自分から積極的に話すことができ、話すことの楽しさがわかりました。来学期もWeald Schoolに行きたいです。

\* \* \* \* \*

最初は「ちゃんとしゃべれるかなー？」と思っていましたが、Weald Schoolの生徒達が来て、「うわあ～、来ちゃったー」と思いながら一人目の人と話すことになりました。でも、だんだん慣れてきて、質問に答える数が増えてきて、楽しくなってきました。しかも僕の名前を覚えてくれて、とても嬉しかったです。「また行きたいなあー」と思いました。

\* \* \* \* \*

「日本にはどんなお祭りがある？」と聞かれた時、「夏祭り… あと、花火大会がある。」と答えました。すると、「花火って何？」と聞かれました。花火を英語で説明する日が来るなんて今まで思ってもみなかったのですごくびっくりしました。それでも何とか説明しようと思い、「ハナビ… イズ ファイア…」と言ってみました。その次に「ファイアー ぱーん！」と言いながら、両手を使って爆発したジェスチャーをしました。ますます分からなくなりましたが、笑ってくれました。ちゃんと受け答えが出来た時はすごく嬉しかったです。

July

SCHOOL EVENTS

7/1 ウィンブルドンテニス観戦

7/4 スクールコンサート

7/2,3 期末試験答案返却

7/3 生徒会主催映画鑑賞会

7/6 1学期終業礼拝・児童生徒帰宅

# それは先輩たちが優しく 教えてくれたから

小学部6年 鈴木 理恩

ぼくが立教英国学院に入ってまずおどろいたことは、学校がとっても広いことです。テニスコートが8面もあり、サッカーグラウンドも2面で、陸上のトラックは1周400メートルで、とてもびっくりしました。

あとはテーブルマナーです。見学に行ったときは大丈夫だろうと思っていたのですが、いざ入ってみると、とてもむずかしかったのです。ちょっととまどいました。しかし、一週間たったらだんだんできるようになっていき、当番の仕事までできるようになりました。それは先輩たちが優しく教えてくれたからだと思います。そうしていくうちに先輩とも仲良くなってきたので、心配だった学校生活も、ものすごく楽しい学校生活になっていきました。もうすぐ球技大会があって、そこでも先輩と仲よく練習しています。外出することもある、おもしろいものが色々あって楽しかったです。ぼくはコップを買いました。また、これから始まるクラブ活動や、フライデースポーツなども一生懸命やりつつ楽しみながらやりたいです。

これからも分からないところなどは、先生・先輩・同級生とがんばりたいです。特に同級生とは協力して、これからもがんばっていききたいです。



## ミャンマーの 裏側に

中学部3年 石川 容佑

僕はミャンマーの裏側を見ました。それは酷いものでした。なのでいつかそんな人達を国際的に助けてあげたいと思いました。ある日、ミャンマーに行くことになり、何をするか聞かずに行きました。ホテルもなかなか良いところだったので、本当に発展途上国かを疑うくらいでした。お父さんが仕事に行ってくると言ったものだから、ついていきたいととっさに言ってしまいました。お父さんの行くところは普通の建物ですが、その途中に上半身裸の男の子がいたのを見かけました。建物から近かったので、一人で行くことを許可されました。行ってみると、そこは道がなく土でした。見たものはまさに教科書のような光景でした。

そこから歩いていくと家がテントになっていきました。みんなにもジロジロと見られましたが、勇気を持って進みました。すると上半身裸の男の子が手を振ってくれました。なぜ僕に手を振ってくれたのかは謎ですが、僕は何かできないかと帰り道で考えました。その時、近くにスーパーマーケットがあることに気づきました。そこで小遣いを全部使って水をできるだけ買ってその子のところに走りました。その子に水を一本あげると嬉しそうに帰っていきました。他の人にも渡しました。

今回、本当にささやかですが、その子の力になれた事が自分でも嬉しく思います。なので、いつの日にかその子の未来が輝くように、日本からではなく世界で活躍して、その子や他の人達が笑顔になる仕事をしたいと思いました。



July  
7月

SCHOOL EVENTS

7/7- 13 Cambridge 研修

7/19-21 UCL Preworkshop

7/28-8/4 京都大学 Science Workshop

7/6-12 高等部3年生補習

7/22-28 UCL Workshop

7/6-13 ホームステイ・短期留学

7/17-21 Cambridge Preworkshop

7/22-28 Cambridge Science Workshop

# チャプレンより 第10回 全ての私達に

立教英国学院 チャプレン 與賀田 光嗣

一学期のハーフタームには日本に帰国した生徒達も数多くいました。久しぶりの母国と家族が安らぎを与えてくれたことと思います。

しかしながら、英国から日本のニュースを見ていると、川崎の殺傷事件が目飛び込んできました。まずは、亡くなった方々、傷ついた方々、その関係者を覚えて祈りましょう。

このニュースを見聞きしたとき、つらい思いをしている人たちのことが浮かびました。と同時に、本校は関東圏からの方が多いので、生徒の皆さんのことが心配になりました。もし直接被害に遭わなくても、生徒達の知人が被害に遭ったかも知れません。

そう思いながらニュースを調べていると、はっとすることがありました。被害者の男性の一人、私と同世代の外務省の方に見覚えがあったのです。

今から十年以上前に、神学校の研修でミャンマーの奥地、インパール作戦の舞台の一つに訪れたことがあります。奥地の空港で、亡くなった外務省の方と私は出会い、ミャンマー最大の都市ヤンゴンまでのフライトを隣席にて共にしたのです。

その時に、ミャンマーの貧しさの問題について言葉を交わしたことを鮮明に記憶しています。

ミャンマーの名産である翡翠の鉱山は、中国やインドの資本に抑えられていて、そこで貧しいミャンマー人の男性が家族のために出稼ぎに行きます。残された妻は、当分の蓄えがない場合は売春宿に働きに行くのです。そして妻や、あるいは現地の売春宿を訪れた夫は性病にかかり、結果、ミャンマーではHIVが蔓延しています。

そのため、現地の教会ではHIV患者のための施設を設けています。

また児童労働も問題となっています。五人に一人の子供が学校に通わず、働かざるをえない貧しさなのです。そういった子供たちの受け皿として、教会が寺子屋のような役割を果たしています。

ある大聖堂を訪ねたとき、多くの若者達が教会で練習を重ねた現地の踊りなどで私達を歓迎してくれました。

その日の夜、ガイドをしてくれるミャンマーの方に連れられ、お酒が飲める大きなホールへ行きました。壇上では、昼間見た踊りと似たような踊りを、若い女性達が披露しています。

ふと目をやると、ホールの片隅には大きな花輪があります。あれは何かと尋ねると、「花輪を買って踊り子に渡すと隣りに来てくれる。さらにもう一つ花輪を渡すと、踊り子と夜を過ごせる」との返事がありました。

何ともやるせない気持ちに包まれたことを覚えています。

この私の経験を生徒達に授業や礼拝などを通して伝えました。

私を通して川崎の殺傷事件や、また殺害された方がどういった国で働いていたか。その国の人々はどういう状況にあるのか。生徒達にとって、今回の川崎の殺傷事件や世界の状況はまさに他人事ではなくなったことと思います。

私達はつい、自分の知っている範囲のみを私達と思い込んでしまいます。

ですが、「私達」という範囲は本当はとても広く、実はまだ会ったことがない人も含めて「私達」なのです。国内外における社会の分断が続いて久しいですが、世界は地続きなのです。

毎朝の礼拝にて、イエス様が教えられた「主の祈り」が唱えられます。その一節に「私達に日ごとの糧をお与えください」という祈りがあります。

この糧は、心と体の糧を意味します。この糧には、愛という意味があるのです。

「全ての私達に、心と体において愛が与えられるように。」

「私達」として祈る意味。「愛」を求め祈る意味。

世を去りし者も、この世にいる者も、全ての私達が共に歩むことができますように。

これを覚えながら、生徒達が人として成長していくことができますよう祈り願っております。



## Information

夏期休暇中 立教英国学院学校説明会

8月4日(日) 東京(立教大学8号館)

8月16日(金) 名古屋(プライムセントラルタワー)

8月17日(土) 大阪(梅田センタービル)

8月18日(日) 東京(立教大学太刀川記念館)

立教英国学院通信の電子配信への切替えにご協力ください。ご意見感想もこちらへどうぞ。

▶▶▶ [publicrelations@rikkyo.uk](mailto:publicrelations@rikkyo.uk)

電子配信版はカラーで送信しております。

第282号 2019年7月14日

発行者 立教英国学院

Rikkyo School in England

Guildford Road, Rudgwick, West Sussex RH12 3BE

<https://www.rikkyo.co.uk>